

九州大学大学院医学研究院

病態機能内科学
脳循環代謝研究室

令和6年度 業績集・年報

Annual Report

2024

Laboratory of Cerebral Blood Flow and Metabolism,
Department of Medicine and Clinical Science,
Graduate School of Medical Sciences,
Kyushu University

目次

1. 脳循環代謝研究室・主任の就任にあたって
(研究室主任・中村 晋之)
2. 脳循環代謝研究室・業績集刊行にあたって
(病態機能内科学教授・吾郷 哲朗)
3. 脳循環代謝研究室の研究室主任の退任にあたり
(前研究室主任・脇坂 義信)
4. 基礎研究 2024 年度のまとめ
5. 臨床研究 2024 年度のまとめ
6. 2024 年度 学位取得者
7. 2024 年度 専門医取得者
8. 2024 年度 公的(競争的)資金
9. その他

脳循環代謝研究室主任の就任にあたって

脳循環代謝研究室 主任
中村 晋之

2025年4月1日付で、脇坂義信先生の後任として脳循環代謝研究室の主任を拝命いたしました、平成15年卒の中村晋之です。

まずは何よりも、長きにわたり本研究室を牽引してこられた脇坂先生に深い敬意と感謝を表したいと思います。脳循環代謝研究室が現在のように、臨床・研究の両面で高い水準を保ち続けていられるのは、先生のとゆまぬご努力と確かなビジョンがあってこそです。私自身、現在に至るまで、数多くのことを学ばせていただきました。主任という大役を仰せつかった今、身の引き締まる思いでおります。優れた業績を残してこられた諸先輩方と比べ、自分にはまだ足りない部分も多く、大きな責任とともに不安も感じています。しかし一方で、これまで育てていただいたこの研究室に、今度は自分自身が何かを返していける立場になったことに、大きな意義と喜びも感じています。

近年、脳卒中医療を取り巻く環境は大きく変化しています。血管内治療の進歩や再生医療・バイオマーカー研究の発展により、かつては不可能とされていた予後改善が、次第に現実味を帯びてきています。その一方で、超高齢社会の進行や医療資源の偏在、医師の働き方改革など、我々が向き合うべき課題も複雑さを増しています。こうした中で、診療・教育・研究それぞれの質を高く保ちながら、若い医師や研究者が安心して挑戦し、成長できる場を整えていくことが、主任としての自分の責務であると感じています。

具体的には、今後以下のような点に力を入れていきたいと考えています。

第一に、一人ひとりが能力を発揮できる柔軟な人材配置と環境整備です。個々のライフステージや志向に応じた働き方を模索し、互いに支え合えるチームを築いていきたいと考えています。

第二に、大学病院と関連施設との連携強化です。臨床力の底上げと適切な人材循環のバランスを取りながら、急性期から回復期に至る一貫した脳卒中医療の提供体制を見直していく予定です。

第三に、研究のさらなる活性化です。私たちの研究室はこれまで、ペリサイトや血管内皮、免疫・炎症、再生など多岐にわたるテーマで国内外に成果を発信してきました。今後も、基礎と臨床の接点を見据えた研究を推進し、学内外のコラボレーションや産学連携にも積極的に取り組みたいと考えています。

そして最後に、若手医師や学生にとって魅力ある研究室であること。ここで学んでよかったと思える場所にすることが、未来への最大の投資だと考えています。

もちろん、これらを一人で成し遂げることはできません。吾郷教授のご指導のもと、

皆さん一人ひとりの力と知恵をお借りしながら、共に考え、実行していく所存です。日々の診療や研究の現場で感じていること、もっとこうしたら良いのではというご意見があれば、ぜひ気軽に聞かせてください。

最後になりますが、皆さんが自分らしく活躍できる、風通しのよい研究室を目指して努力してまいります。どうぞ今後とも、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(令和7年5月)



脳循環代謝研究室・業績集刊行にあたって

病態機能内科学 教授

吾郷 哲朗

2025年3月末をもちまして北園孝成教授がご退任され、私が後任として第二内科教授を拝命いたしました。これに伴い、第二内科・各研究室における主任の交代が進められ、新たな時代を迎えております。脳循環代謝研究室においても、脇坂義信先生から中村晋之先生へと主任が引き継がれました。

現在、脳循環代謝研究室では、脳卒中発症予防から急性期の内科診療に加え、血管内カテーテル治療、リハビリを中心とした亜急性期以降の医療、さらには神経疾患全般への対応まで、多岐にわたる診療が行われています。研究活動においても、動物モデルを用いた基礎研究から、FSRを活用した臨床疫学研究まで幅広く展開されており、我が国において屈指の脳卒中診療・研究グループに成長していると言っても過言ではありません。

第二内科では、前年度の全研究室の活動を取りまとめた「年報」を年末に刊行しておりますが、その情報量は非常に多く、各研究室の詳細な診療・研究内容まで十分に紹介しきれないという課題がありました。そうしたなか、「脳循環代謝研究室の動向を詳しく伝える資料があってもよいのではないか」という声が出るようになり、このたび、中村新主任のご尽力により、同研究室の業績集がPDF形式で作成される運びとなりました。

今回が初めての試みとなりますが、今後さらに内容を充実させることで、より有益な情報共有ツールとして発展していくことを期待しております。研究室が担う広範な領域において、メンバー一人ひとりの取り組みや成果を共有することにより、診療・研究活動が一層活性化することを願ってやみません。

脳循環代謝研究室の研究室主任の退任にあたり

前 脳循環代謝研究室 主任
脇坂 義信

2018年9月から脳循環代謝研究室の第七代目の研究室主任を担当させていただきました。2013年4月に大学に教員として赴任してから前主任の吾郷哲朗先生のもとで自由気ままに臨床や研究、また学生教育をさせていただいていましたが、研究室主任としての吾郷哲朗先生のご奮闘ぶりを日々目の当たりにしていると、研究室主任は大変だな、とやや他人事のように感じていました(失礼いたしました、)。しかし、思いもよらず研究室主任を引き継ぐこととなり、想像以上に研究室主任が担う仕事の範囲が広いことに、またその責任の重大さにすぐに直面し、どんな仕事・役目も実際に担ってみないとその大変さは理解できないのだな、と痛感することとなりました。歴代の主任の先生方が如何にして根気強く責務を果たされていたのか、想像する日々でした。ただし、大学内には北園孝成先生、鴨打正浩先生、吾郷哲朗先生と主任を経験された先生方がおられ相談しやすい環境であり、また特に研究面において吾郷哲朗先生、松尾龍先生、中村晋之先生、清原卓也先生にご指導をいただいていたので、これまでの研究室主任の中では最も恵まれた環境でもあったとも思います。研究室主任として研究室メンバーの下支えとなることができれば、特に若手や中堅の先生方のサポートができればと思い、主任の任務を果たしてきたつもりではございますが、力不足でお役に立てなかったことが多々あったことと思います。それでも多くのご支援やご助言をいただけましたことに深く感謝申し上げます。

主任を担当している期間で研究室を取り巻く環境が大きく変化し、特に脳梗塞超急性期の血管内治療の普及や新専門医・専攻医制度の変化に対応する必要性がございました。一次脳卒中センターコア施設の学会認定が開始され、関連施設から血管内治療専門医の赴任要請が相次ぎましたので、引き続き血管内治療専門医の育成に重点を置いてまいりました。しかし新専門医・専攻医制度の開始により内科医、とりわけ脳卒中などの救急疾患を担う内科医を目指す研修医が減り、脳循環代謝研究室への新入研者も少なくなってまいりました。そのため血管内治療専門研修のための国内留学開始を先延ばしにさせていただくことも度々あり、血管内治療専門研修を目指す若手の先生方の希望や、関連施設からの血管内治療専門医の増員要請に十分に答えることができず大変申し訳なく思っています。ただ、最近になり関連施設での指導や勧誘が徐々に壮行して脳卒中の内科診療に興味を抱いていただける研修医が少しずつ増えてきているのを感じています。脳卒中診療は血管内治療だけではなく、リハビリや再発予防、また周辺疾患や類似疾患への対応も求められ、それぞれの分野を目指すメンバーの希望をも叶えていく必要がありますし、また各メンバーの負担を軽減しつつ、

脳循環代謝研究室全体としてのパフォーマンスを上げていくためにも、1人でも多くの研修医の先生方を惹きつけて入研していただくことが重要です。新研究室主任の中村晋之先生のもとで、研究室メンバーが一丸となって勧誘を行い、研究室に新しいメンバーが入ってくることを、そして研究室が発展していくことを切に願っています。

さて、これまで「9 研支援プロジェクト」と銘打って、主に昭和の時代に大学を卒業なされた研究室 OB の先生方に寄付金をいただき、勧誘活動に充てさせていただきました。ご寄付をいただきました先生方に深く感謝申し上げます。ただ、研修医との懇親会費もそれなりにかかり、最近は寄付金からの支出は研修医の分にとどめざるを得なくなってきました。実際に研修医を勧誘していただいています若手の先生方の経済的負担を軽くしていく必要がありますので、今後は「9 研支援プロジェクト」に幅広い先生方にご支援をいただけたらと思います。ご寄付について改めてご案内させていただきます。

研究室主任として最も印象深かったのは北園孝成先生が大会長を務められた 2021 年の脳卒中学会学術集会の準備に携わったことです。特に学会事務局から 2020 年 11 月中旬に連絡があり、一般演題のタイトルと抄録をもとに、演題カテゴリーの作成、カテゴリー毎に応募演題を割り振りし、そして座長候補をきめて、5 日以内にそれぞれの案を回答しないとイケないことがございました。5 日間とは無茶な要求だな、とは思いましたが、新型コロナウイルスのため 2 内科同門会の開催が見送られていた時期でもありましたので、すっぱりと予定が空いた勤労感謝の日を含めた 3 日間、徹夜で回答案を作成しました。特に座長を誰に依頼するのか、そもそも全国にどのような先生方がおられ、どのような分野を専門としているのか分かりませんでしたので、暗中模索での作業となりました。おそらく 3 日間も徹夜したのは初めてであったと思いますし、今後もないことを願っています。今後、吾郷哲朗先生が脳卒中学会などの学会大会長を務められることがあるかと思えます。その際は開催準備の実務を担うこととなる先生方のサポートができればと思っています。

この 6 年 7 ヶ月間、研究室主任として貴重な体験や人的交流をさせていただきました。正直申しますと辛く感じたことも多々ございましたが、振り返ってみますと、私にとりましてかけがえのない経験になったと思います。暖かいご支援をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、今後も脳循環代謝研究室に皆様から大きなご支援をいただけますようお願い申し上げます。



基礎研究 2024 年度のまとめ

我々はこれまで、脳血管ペリサイトに着目し、脳梗塞後の組織修復のメカニズムを明らかにする研究に取り組んできた。その結果、ペリサイトが単なる血管の支持的細胞ではなく、血流回復やマクロファージとの相互作用によるデブリスの貪食、再髄鞘化を通じて修復過程を積極的に制御する存在であることを明らかにした。また、細胞外マトリックス **Perlecan** や **SGLT2** 阻害薬がペリサイトの維持・活性化に寄与する可能性も示してきた。

現在、脳梗塞後の内因性修復を促進する新規戦略の開発に向けて、ペリサイトの起源解明や誘導機構の理解をさらに深める研究を進めている。特に、ペリサイト動員の機序を応用した治療的介入の可能性を追求することで、再生医療への展開を目指す。

(1) 基礎研究の 2024 年度の研究成果(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

【学会発表】

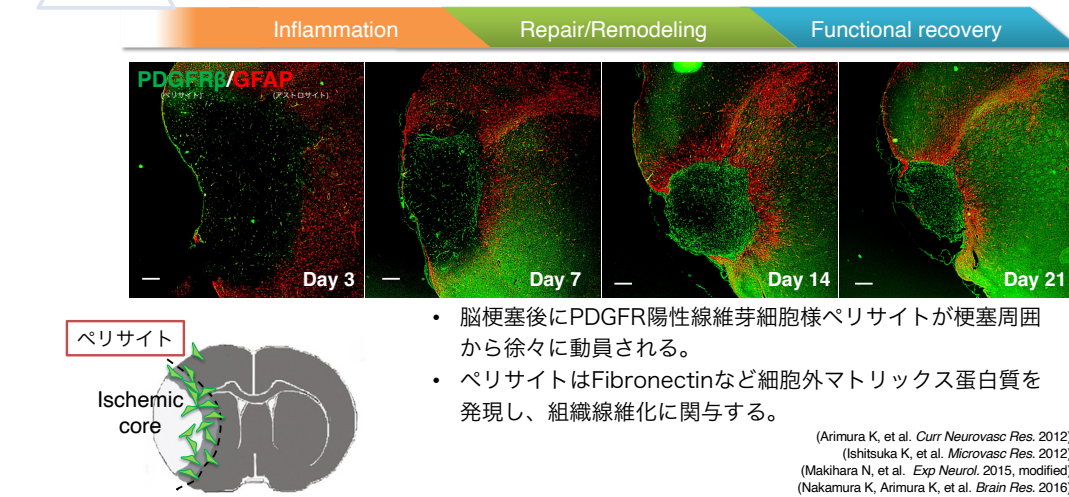
- 中村晋之, 日高壮意, 尾崎雄一, 春山裕典, 吉野文隆, 高島正光, 清原卓也, 脇坂義信, 北園孝成, 吾郷哲朗. <学会認定研究シンポジウム>脳梗塞後の機能回復を促進するペリサイト誘導機構の解明. 第 67 回日本脳循環代謝学会学術集会, 富山, 2024, 11
- 吉野文隆, 中村晋之, 尾崎雄一, 春山裕典, 日高壮意, 高島正光, 清原卓也, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 北園孝成. 基底膜を構成する **Perlecan** は脳梗塞直後に血管新生を促進し、脳梗塞後の組織修復や機能回復に関与する. 第 67 回日本脳循環代謝学会学術集会, 富山, 2024, 11
- 中村晋之, 日高壮意, 高島正光, 山中圭, 芝原友也, 清原卓也, 脇坂義信, 北園孝成, 吾郷哲朗. <シンポジウム>脳虚血におけるペリサイトによる炎症細胞制御. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3
- 中村晋之. <教育講演>脳卒中の基礎研究入門—治療への道筋を見据えて. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3

【在籍大学院生】

D4 日高壮意、D3 吉野文隆、D1 尾崎雄一、D1 春山裕典(脳神経外科より出向)

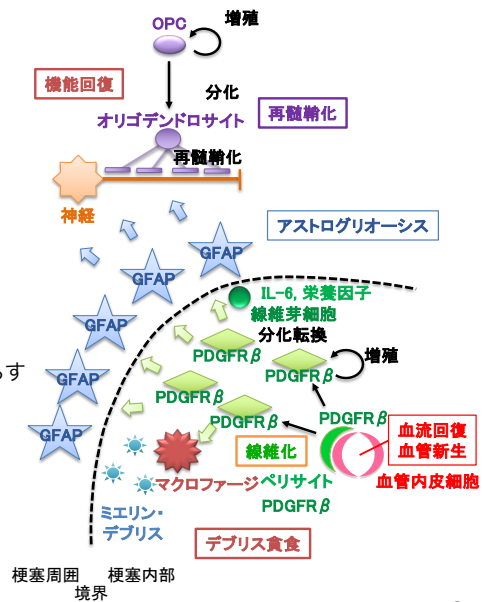
(2) 基礎研究のこれまでの研究成果

脳梗塞後にペリサイトは梗塞周囲から動員される



Neurovascular unit相互連関による組織修復・機能回復

- 脳梗塞後にペリサイトは…
- 血管新生・成熟化、脳血流の回復
 - グリア瘢痕形成
 - マクロファージとの相互作用によるミエリン・デブリスの除去
 - オリゴデンドロサイト前駆細胞の分化（再髄鞘化）を促し、組織修復・機能回復をもたらす

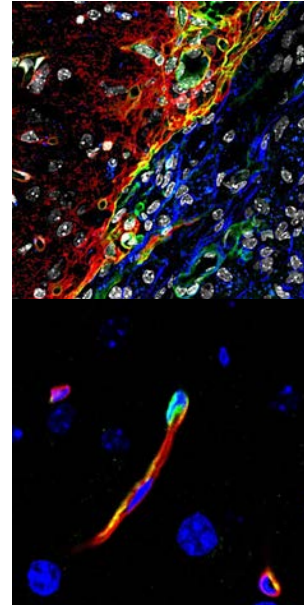


(Arimura K et al. *Curr Neurovasc Res.* 2012)
 (Ishitsuka K et al. *Microvasc Res.* 2012)
 (Makihara N et al. *Exp Neurol.* 2015, modified)
 (Nakamura K, Arimura K et al. *Brain Res.* 2016)
 (Shibahara T et al. *eNeuro* 2020)
 (Shibahara T et al. *Stroke* 2020)

ECM蛋白による組織修復過程の 微小環境調整

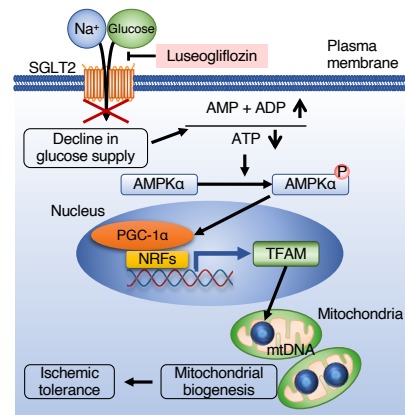
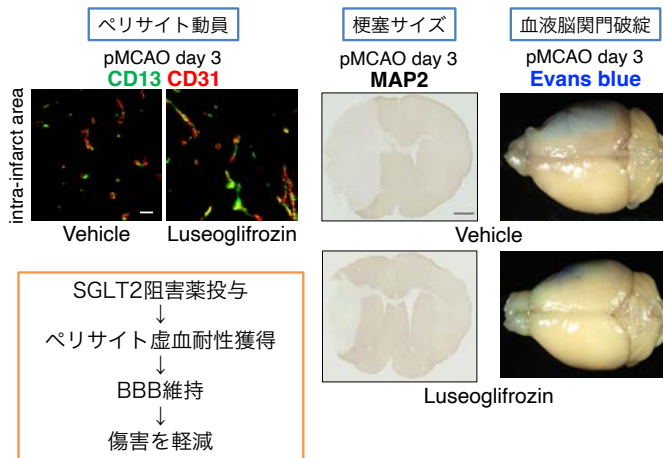
- **Perlecan** : 血管基底膜を構成し、BBBの維持とペリサイトの誘導を担う
- **Fibronectin** : 線維化およびマクロファージのデブリス貪食を促進する
- **Laminin $\alpha 2$** : グリア瘢痕形成および再髄鞘化を促進する

(Nakamura K et al. *J Cell Biol.* 2019)
(Shibahara T et al. *J Cereb Blood Flow Metab* 2022)



3

超低用量SGLT2阻害薬は脳血管ペリサイトに作用し、 脳梗塞による傷害を軽減する



(Takashima M, et al. *Commun Biol.* 2022.)

4

臨床研究 2024 年度のまとめ

福岡脳卒中データベース研究 (Fukuoka Stroke Registry: FSR)

福岡脳卒中データベース研究(FSR)は、北園孝成先生(昭和 59 年入局)、鴨打正浩先生(昭和 62 年入局)が主導され、2007 年 6 月から 2019 年 9 月まで関連7施設で前向きに脳卒中患者の登録を行った多施設共同研究である。この間、発症 24 時間以内の急性期脳卒中患者 17074 名が登録された。同意取得率は 85%と極めて高く、数多くの CRC のサポートにより精度の高いデータ収集を可能した。また、現在も電話調査による追跡情報は継続しており、最長で 18 年目の追跡調査を行っている。FSR 研究は、脳卒中の病態解明をめざし、これまで数多くの業績を積み重ね、今なお、多くの研究課題に取り組んでいる。

(1) FSR 研究のこれまでの研究成果

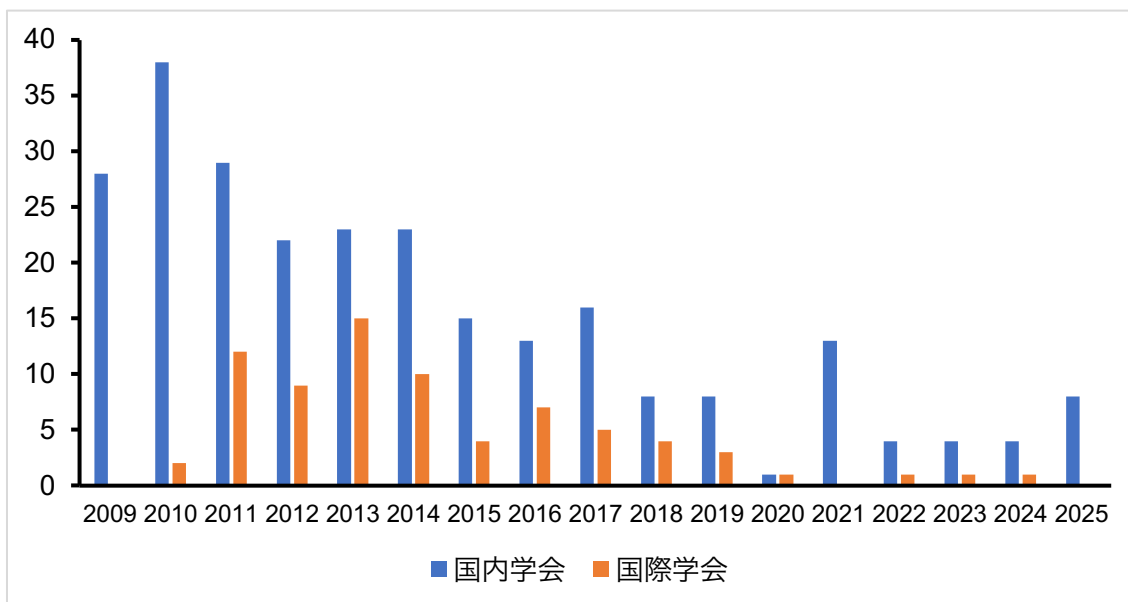
【学術論文】

学術論文は、2007 年から 2025 年 3 月までにあわせて 58 本の研究論文が受理され (3.4 本/年)、Stroke 誌 12 本、Neurology 2本と学術的な評価の高いジャーナルにも掲載されている。

Journals	IF	2007	2008	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
Metabolism	10.9						1											
JAMA Netw open	10.5										1							
Neurology	8.4				1						1							
Stroke	7.9			1	1	1	1	2	1	1			1	1	1	1		
Hypertension	7.2						1											
Int J Stroke	6.3										1							
J Am Heart Assoc	5.0									1								
Atherosclerosis	4.9					1												
Eur J Neurol	4.5	1	1			1												
Hypertens Res	4.3																	1
Sci Rep	3.8															1	1	1
J Neurol Sci	3.7				1		1									1		
Neurol Clin Pract	3.1											1		1				
PLoS One	2.9						1		1						1	1	2	
Brain res	2.7					1												
Geriatr Gerontol Int	2.4						1											
BMJ open	2.4					1												
Cerebrovasc Dis	2.2		1		2				2	1			1	1		1		2
BMC Neurol	2.2					1												
J Stroke Cerebrovasc	2.0				1	1	1											
Cerebrovasc Dis Extra	2.0						1											
JMIR AI																		1
total		1	2	1	6	7	8	2	4	3	3	1	2	3	2	5	4	4
		1	3	4	10	17	25	27	31	34	37	38	40	43	45	50	54	58

【学会報告】

2025年3月までの学会発表は、国内学会 257 演題、国際学会 75 演題で、あわせて 332 演題行った。



【学位取得】

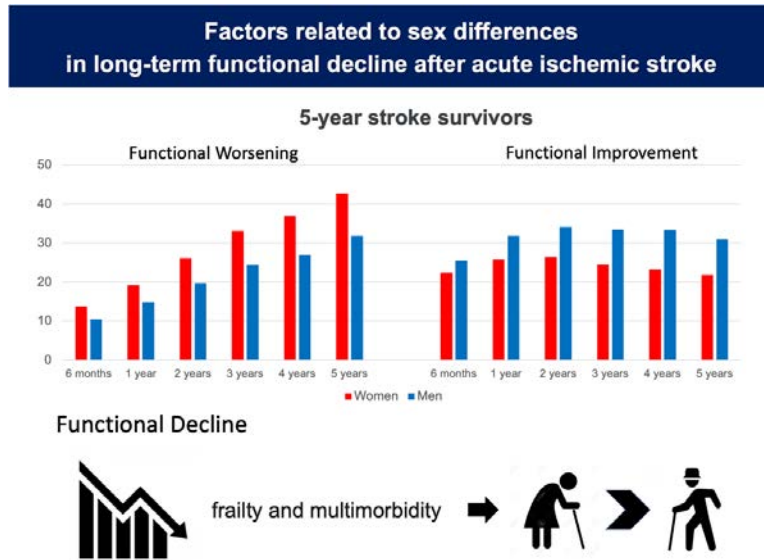
これまで9名が大学院に進学したうえでの研究を含め、学位を取得した。

氏名	学位論文
中村 麻子	Intensity of anticoagulation and clinical outcomes in acute cardioembolic stroke: the Fukuoka Stroke Registry
牧原 典子	Statins and the risks of stroke recurrence and death after ischemic stroke: the Fukuoka Stroke Registry
入江 芙美	Sex differences in short-term outcomes after acute ischemic stroke: the Fukuoka Stroke Registry
生野 雄二	Safety of antithrombotic therapy for patients with acute ischemic stroke harboring unruptured intracranial aneurysm
佐藤 倫子	Anticoagulation and risk of stroke recurrence in patients with embolic stroke of undetermined source having no potential source of embolism
大屋 祐一郎	Causes of ischemic stroke in young adults versus non-young adults: A multicenter hospital-based observational study.
植木 香奈	Decreased Estimated Glomerular Filtration Rate and Proteinuria and Long-Term Outcomes After Ischemic Stroke: A Longitudinal Observational Cohort Study
脇坂 佳世	Non-linear association between body weight and functional outcome after acute ischemic stroke.
賣豆紀 智美	Body temperature in the acute phase and clinical outcomes after acute ischemic stroke

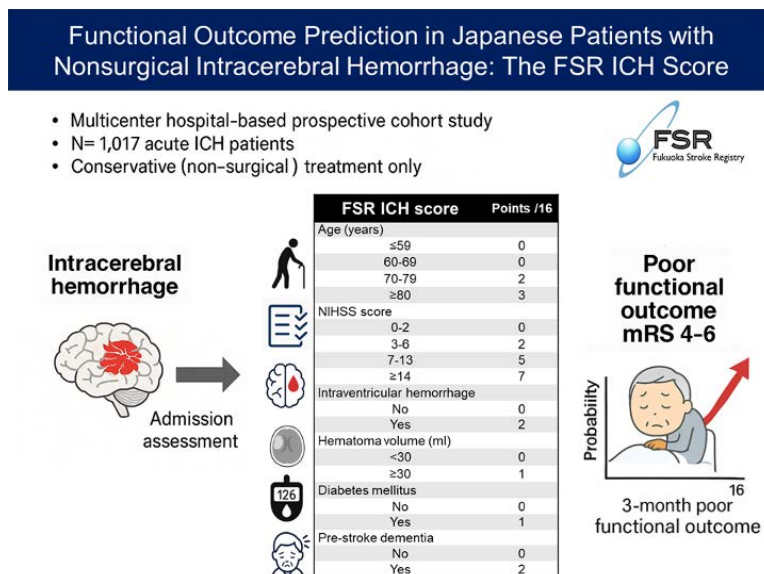
(2) FSR 研究の 2024 年度の研究成果 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

【論文】

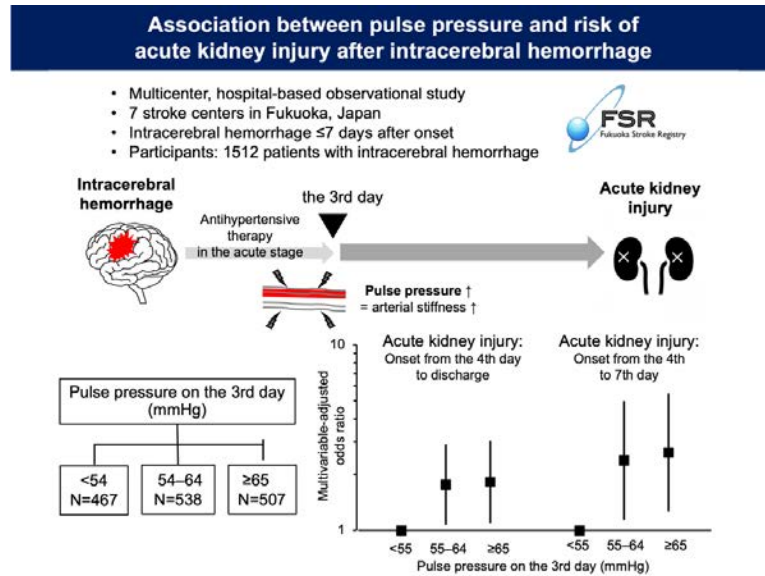
- Irie F, Matsuo R, Mezuki S, Wakisaka Y, Kamouchi M, Kitazono T, Ago T; Fukuoka Stroke Registry Investigators. Effect of smoking status on clinical outcomes after reperfusion therapy for acute ischemic stroke. *Sci Rep.* 2024;14(1):9290.



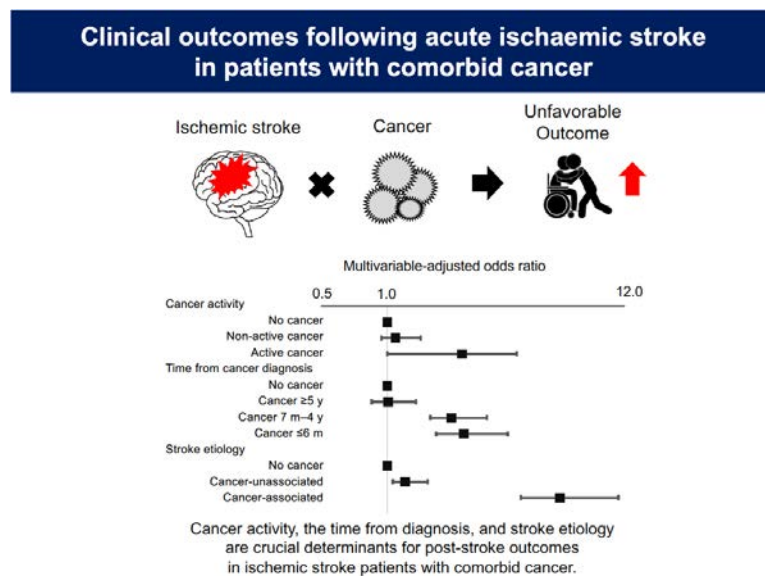
- Kiyohara T, Matsuo R, Irie F, Nakamura K, Hata J, Wakisaka Y, Kitazono T, Kamouchi M, Ago T; Investigators for Fukuoka Stroke Registry. Functional Outcome Prediction in Japanese Patients with Nonsurgical Intracerebral Hemorrhage: The FSR ICH Score. *Cerebrovasc Dis.* 2025:1-8.



3. Ohya Y, Irie F, Nakamura K, Kiyohara T, Wakisaka Y, Ago T, Matsuo R, Kamouchi M, Kitazono T; Investigators for Fukuoka Stroke Registry. Association between pulse pressure and risk of acute kidney injury after intracerebral hemorrhage. *Hypertens Res.* 2025;48:939-949.



4. Sato N, Kiyuna F, Wakisaka K, Ohya Y, Ueki K, Yoshimura S, Nakamura K, Hata J, Wakisaka Y, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T, Matsuo R; Fukuoka Stroke Registry Investigators. Clinical Outcomes following Acute Ischaemic Stroke in Patients with Comorbid Cancer. *Cerebrovasc Dis.* 2025:1-9.



【学会発表】

- Matsuo R, Sato N, Kiyuna F, Irie F, Wakisaka Y, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T. Clinical outcomes after acute ischemic stroke in patients with comorbid cancer. 10th European Stroke Organization Conference, Basel, Switzerland, 2024.5
- Miwa K, Takahashi A, Kamatani Y, Matsuo R, Kitazono T, Toyoda K, Ihara M, Koga M. Genetic investigation for cerebral small vessel disease genes in patients with spontaneous intracerebral hemorrhage. 2025 International Stroke Conference, Los Angeles, United States, 2025.2
- Matsuo R, Michikawa T, Yoshino A, Takami A, Ago T, Kitazono K, Kamouchi M. Effects of exposure to chemical components of fine particulate matter on ischemic. 2025 International Stroke Conference, Los Angeles, United States, 2025.2
- 佐原範之, 松尾龍, 橋本剛, 清原卓也, 中村晋之, 入江芙美, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. 中大脳動脈 M2 急性閉塞に対する脳血管内治療の有効性の検討 —福岡脳卒中データベース研究 (FSR) より—. 第 17 回福岡県医学会総会、福岡、2025.1
- 橋本剛, 松尾龍, 佐原範之, 清原卓也, 中村晋之, 入江芙美, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. 推定除脂肪量指数と脳梗塞発症後の短期予後との関連:Fukuoka Stroke Registry. 第 17 回福岡県医学会総会、福岡、2025.1
- 高島正光, 清原卓也, 尾崎雄一, 吉野文隆, 橋本剛, 日高壮意, 佐原範之, 中村晋之, 松尾龍, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. RNF213 p.R4810K 多型と頭頸部主幹動脈病変の関係:Fukuoka Stroke Registry における関連因子の探索. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3
- 木村俊介, 溝口忠孝, 佐原範之, 今村裕佑, 田川直樹, 森興太, 桑城貴弘, 杉森宏, 松尾龍, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成, 岡田靖. 血栓回収療法後の 1-2-3-4-day rule による直接経口抗凝固薬早期投与の検討;the Fukuoka Stroke Registry. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3

- 脇坂義信, 清原卓也, 中村晋之, 松尾龍, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. 脳卒中の発症・再発予防また脳卒中転帰不良抑制のための血圧管理. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3
- 橋本剛, 松尾龍, 佐原範之, 清原卓也, 中村晋之, 入江英美, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. 推定除脂肪量指数と脳梗塞発症後の短期予後との関連:Fukuoka Stroke Registry. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3
- 佐原範之, 松尾龍, 橋本剛, 清原卓也, 中村晋之, 入江英美, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. M2 急性閉塞に対する脳血管内治療の有効性の検討ー傾向スコアマッチング解析ー: Fukuoka Stroke Registry. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3
- 中村晋之, 松尾龍, 橋本剛, 佐原範之, 清原卓也, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. NVAF 合併脳梗塞における HELT-E2S2 スコアと脳梗塞再発との関連性の検討:Fukuoka Stroke Registry. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3
- 松尾龍, 脇坂義信, 吾郷哲朗, 鴨打正浩, 北園孝成. 急性期脳梗塞患者の長期予後の推移:福岡脳卒中データベース研究. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2025.3

【サブ研究】

- **脳梗塞バイオマーカー探索研究(R-REBIOS)** :脳梗塞におけるバイオマーカーの探索、再解析に関する共同研究(R-REBIOS)は、先行する REBIOS 研究に登録いただいた脳梗塞の患者さんを対象とした再解析の研究で、さらに診断や治療に役立つと考えられるタンパク質を測定し、新たな診断、治療法に役立つ可能性を探っている。
- **脳梗塞慢性期血液バイオマーカー研究(C-REBIOS)** :脳梗塞におけるバイオマーカーの探索、再解析に関する共同研究(R-REBIOS)」の二次利用による研究で、脳梗塞慢性期に上昇し、神経機能の改善に関連する可能性のある自己抗体を測定する。
- **脳梗塞バイオマーカー網羅的解析・開発研究(VREBIOS2)** :脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究(VREBIOS)を二次利用する研究である。脳梗塞患者さんの血液検体を網羅的に探索・解析し、新しい知見を見出し、新たな治療法に役立つ可能性を探っている。
- **超急性期脳血管内治療の実態に関する研究(FSR-EVT)** :福岡脳卒中データベース研究 FSR の中から脳血管内治療を実施した患者さんの臨床データを収集し、その実態と予後との関連因子を明らかにする研究である。

【共同研究】

- **FSR 研究を用いた本邦における急性期脳梗塞患者の予後に関する検討**
株式会社ヘリオスと共同研究で、本邦における急性期脳梗塞患者の予後と基本背景との関連を明らかにしている。
- **脳出血ゲノム研究 (Intracerebral hemorrhage GENOME study: ICH-GENOME study)**
国立循環器病研究センターとの共同研究で、本邦における急性期脳出血の関連遺伝子を明らかにする。
- **急性期脳梗塞／一過性脳虚血発作の新規血液バイオマーカーの確立**

国立循環器病研究センターとの共同研究で、急性期脳梗塞および一過性脳虚血発作における「新規血液バイオマーカー」の有用性について明らかにする。

■ **短期的な微小粒子成分曝露の循環器・呼吸器影響に関する環境疫学研究**

東邦大学、国立環境研究所との共同研究で、本邦における PM2.5 とその成分の曝露が急性期脳梗塞患者の発症に及ぼす影響について明らかにする。

【在籍大学院生】

D4 佐原範之、D3 橋本剛、D2 坂井翔建(白十字病院)、D2 横井美央(九州中央病院)、D1 木附信二(聖マリア病院)

2024 年度 学位取得者

賣豆紀智美 (H21)

急性期虚血性脳卒中における急性期の体温と臨床転帰について

Body temperature in the acute phase and clinical outcomes after acute
ischemic stroke

PLos One 2024;19:e0296639



2024 年度 専門医取得者

日本内科学会 総合内科専門医

山中圭 (H24)、横井美央 (H26)、木附信二 (H27)

日本脳卒中学会 脳卒中専門医

村谷陽平 (H26)、今村裕佑 (H29)、水戸大樹 (H29)

日本脳神経血管内治療学会 専門医

古賀統之 (H26)、森田隆雄 (H27)

三学会(日本脳卒中学会・日本脳神経外科学会・日本脳神経血管内治療学会)承認脳血栓回収療法実施医

新田朋彦 (H28)

日本神経学会 神経内科専門医

松下知永 (H14)、松岡幹晃 (H23)、金沢信 (H24)、今村裕佑 (H29)

日本老年医学会 老年科専門医

村瀬沙織 (H24)

日本認知症学会 認知症専門医

中村晋之 (H15)、司城昌大 (H20)

日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医

取得者なし

2024 年度 公的(競争的)資金

	代表者/ 交付金額 (単位千円)
1 脳梗塞機能回復治療への挑戦 - ペリサイトをいかに再動員させるか? (文部科学省科学研究費補助金 基盤 B)	吾郷哲朗 4,680
2 脳卒中疾病負荷軽減のためのデータ駆動型最適化医療の構築 (文部科学省科学研究費補助金 基盤 B)	鴨打正浩 2,860
3 加齢が脳梗塞後のペリサイトを介した組織修復・内因性回復機構に与える影響の解明 (文部科学省科学研究費補助金 基盤 C)	脇坂義信 1,560
4 医療と介護レセプト連結データを用いた脳卒中の疾病負荷に関する研究 (文部科学省科学研究費補助金 基盤 B)	松尾 龍 5,330
5 脳卒中後の日常生活動作の障害に関連する予後規定因子の解明 (文部科学省科学研究費補助金 基盤 C)	入江芙美 1,300
6 SGLT2 を標的とした脳梗塞後のペリサイト機能維持機構の探索 (文部科学省科学研究費補助金 基盤 C)	中村晋之 1,430
7 ペリサイトにおける SGLT2 に着目した脳血管性認知症に対する新規治療法の開発 (文部科学省科学研究費補助金 研究活動スタート支援)	高島正光 1,430
8 脳梗塞後に動員されるペリサイトの起源およびその後の運命決定機構の解明 (文部科学省科学研究費補助金 若手研究)	芝原友也 1,820
9 NOX4 を標的とした脳梗塞後のペリサイト誘導治療の探索 (文部科学省科学研究費補助金 研究活動スタート支援)	山中圭 1,430

- | | | |
|----|--|---------------|
| 10 | マクロファージが制御する脳梗塞後の血管・組織修復機構の解明と機能回復治療の探索
(公益財団法人 先進医薬研究振興財団 研究助成 循環医学分野) | 中村晋之
1,000 |
| 11 | 血糖変動が脳卒中患者の転帰に与える影響:福岡県急性期脳卒中患者登録システムの検討
(公益財団法人 鈴木万平糖尿病財団) | 清原卓也
2,000 |
| 12 | 脳梗塞後の機能回復を促進するペリサイト誘導機構の解明
(日本脳循環代謝学会 エビデンス創出・基礎研究) | 中村晋之
200 |

9 研支援プロジェクト

2020年2月より、脳循環研究室ご出身の先生方のご厚意により立ち上げられた「9研支援プロジェクト」は、当研究室の若手医師育成と人材確保を目的とした勧誘活動を支えるための寄付プロジェクトです。

この取り組みにより、研修医との交流を深める機会を数多く得ることができ、実際に毎年新たな入局者の獲得につながる成果を挙げております。特に勧誘を目的とした懇談会の実施や、現場でのサポート活動において、皆様からのご支援が大きな支えとなっております。

心より御礼申し上げますとともに、今後もこの温かいご支援の輪が次世代の人材育成へとつながっていくことを願っております。

2024年度にご寄付いただいた先生方(順不同)

岡田靖先生

北園孝成先生

杉東明先生